

現職教育計画

1 研究主題

友達とかかわり合い、共に高め合う児童の育成
—心と心をつなぐ言語活動の工夫—

(1) 研究主題設定の理由

今日、自制心や規範意識の低下だけでなく、人間関係の形成が苦手なために問題行動を起こしてしまう児童が増えている。このような現状を受けて、友達との良好な人間関係を築くことができる児童を育成していくことは、学校教育において最も重要な課題と言える。

本校の現職教育では、平成19・20年度の中四国体育研究会の体育科の研究を通して、運動好きになる大きな要因の一つに友達とかかわりが楽しいことであるということが分かった。また、児童の持てる力を引き出し伸ばすためには、教師が支援の工夫を図ったり、教材を工夫したりして、児童の意欲を引き出し、付けたい力を高める授業を展開することが大切であることを実感した。この研究成果や学校課題を踏まえて、「友達とかかわり合い、共に高め合う児童の育成」を研究主題として研究を進めてきた。昨年度は、サブテーマとして「心と心をつなぐ言語活動の工夫」を設定し、各教科の実践研究において、友達とスムーズに意見交換ができるために話型を設定したり、お互いの考えを高め合う交流の在り方や教師の支援の在り方を追求したりしてきた。また、人権尊重の基盤に立った教育の推進として、授業の終末に「振り返りの時間」を設け、自己達成感やお互いのよさに気付くようにしてきた。なかまづくりの面では、なかま学習やふれあい活動を中心に据えてすべての教育活動を見直し、よりよいなかまづくりや人間関係を拓くための実践を行った。同時に、心身ともに健康な生活を送れるように、生活習慣を見直したり体力面の向上を目指したりする取組も継続してきた。

(2) 児童の実態から

児童へのアンケートでは、ほとんどの児童が「学校生活が楽しい。」と答えており、学級でのなかまづくりはおおむね満足できる状態であるといえる。しかし、児童の日常生活を見ていると、自分の思いをはっきりと表現できなかつたり、乱暴な言葉を使ったりする場面が見られる。このような点から、他者の気持ちを考えることや一人一人の居場所の確保の視点に立った教育活動、温かい言葉の交流を重視した実践を行っていく必要があると考えられる。

また、本校の児童は、幼いころから母集団がほとんど変わらないために人間関係が固定化される傾向が強く、友達を一方的な見方で見てしまう面が見受けられる。自分の思いをうまく表現できなくて、友人関係をこじらせてしまう児童もいる。お互いの人権を尊重した豊かなかかわりには、日常的な言動において、児童自ら問題意識を持ち、問題解決に向かって行動を起こしていくことが求められる。このような実践的な人権感覚を育てる基盤には、相手の気持ちになって真剣に話を聴いたり、自分の考えや気持ちを的確に表現したりする力が必要である。

(3) 研究主題について

そこで、本年度のテーマは、昨年度に引き続き人間関係を築く基盤となる言語を重視したいと考え、「友達とかかわり合い、共に高め合う児童の育成」とし、サブテーマとして「心と心をつなぐ言語活動の工夫」を設定した。

まず、『友達とかかわり合い』という点については、学習活動において、友達と意見を交換したり、話し合ったりする等、友達とかかわる場面を設けるようにする。友達との交流の場面をどのように設定するかで、児童の意欲の向上にもつながる。また、友達とかかわる場を重ねていくことで、適切なかわり方を学んでいくことができる。それが、学年、異学年、さらに地域の人とかかわりへと広がり、人間関係を拓く力を育成できるようになると考える。

次に、『共に高め合う』とは、なかまと豊かにかわり、多様な思いや考えに触れる中で、お互いに切磋琢磨しながら共に高まっていくことである。そのためには、教師は、なかまとのよりよいかかわり方の支援や指導を積極的に行う必要がある。「どのような言葉でどう伝えると、自分の思いをはっきりと伝えることができるのか。相手の言葉をどのように聴くと、相手の思いを理解できるのか。」様々な場面でスキル学習も取り入れ、実践していきたい。児童一人一人が、互いに個のよさを認め合い、その中で自分のよさを発揮できる集団を育てていくことが、なかまと共によりよく生きることにつながる。

特に、なかま学習(人権学習)・ふれあい活動・教科学習の中で豊かな人間関係を築く言語活動を工夫したり、教育環境を整備したりすることで、この主題の実現に迫りたいと考える。また、本年度は、これらの実践の基盤となる児童一人一人の力を付けるための方法も追求していく。

2 研究内容

(1) 人間関係を築く言語活動の工夫

- ① ふわふわ言葉を広げる。(あいさつ・賞賛の言葉・励ましの言葉・共感の言葉等)
- ② ふれあい活動の中での言語活動を工夫し、実践する。(進行の言葉・お礼の言葉・感想の発表等)
- ③ 話し合う力を育成する。(話型・聴き方・進行の仕方・意見のまとめ方等)
- ④ 家庭への啓発と連携を行う。(学校便り・学年便り・学級PTA等)

(2) 学力向上のための取組

- ① 家庭学習を推進する。(家庭学習の手引きの作成・推進等)
- ② 基礎学力向上のための実践を行う。(城山タイム・マイスタディの計画と実践等)
- ③ 学習意欲を高めるための学習規律や態度を育成する。
- ④ 家庭への啓発と連携を行う。(学校便り・学年便り・学級PTA等)
- ⑤ 教師の指導力向上を行う。

(3) 教育環境の整備

- ① 言葉を意識した校内掲示の企画と実践をする。
- ② ふわふわ言葉や話型の提示や掲示を推進する。
- ③ 賞賛の場を企画するとともに運営の仕方を工夫する。
- ④ よりよい教師の言葉を考え、実践する。